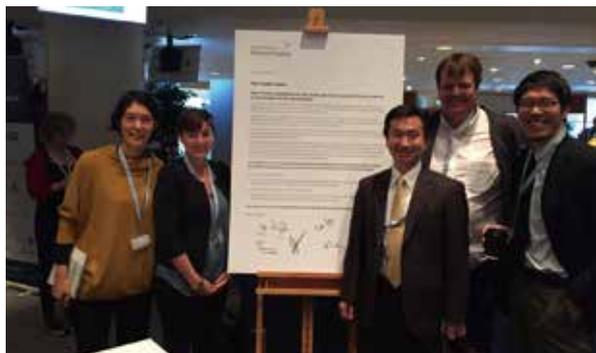


自然資本管理の主流化による持続可能な社会の構築を目指す民間セクターへのアプローチ

イベントの延べ参加者数	75人
イベント参加者の満足度	78%
活動の全体目標に対する達成度	50%



コンサベーション・インターナショナルスタッフ、世界自然資本フォーラムにて

◆成果と工夫したポイント

- **成果** 現在、プロトコルを試行している日本企業はないが、シンポジウムの後、7月に正式版が出るのに合わせて、試してみたいという声が聞かれ、自然資本が、企業の経営判断に含まれる方向への変化の兆しが見られるようになった。
- **工夫** プロトコルの開発に関わるメンバーから組織的な協力を得ること(自然資本コアリション、WBCSD)。

課題

生態系サービスを生み出す健全な自然環境は持続可能な社会の基盤であるが、今の経済の仕組みではその劣化が必ずしもコストとならないため、その重要性が過小評価されている。

活動内容

ビジネスの自然への影響と依存度を評価する、標準化されたアプローチである「自然資本プロトコル」に関するシンポジウムを、2016年2月15日、国連大学エリザベス・ローズ会議場にて開催(参加75名)。海外から招聘した本プロトコル作成の中心人物3名



自然資本プロトコル国際シンポジウム

と国内の論客2名が参加。プロトコルを紹介し、持続可能な世界に向けて期待される役割について議論。

共催：自然資本コアリション／後援：環境省／協力：WBCSD
(持続可能な開発のための世界経済人会議)

今後の課題

- ・7月に発表される自然資本プロトコルの正式版を翻訳。
- ・同プロトコル普及のための取組み(シンポジウムなど)を展開。
- ・ビジネス、行政への働きかけ。